

2011年2月23日	研究院審査・評価部会 承認
2011年3月2日	研究院運営委員会 報告

重点領域研究 中間評価実施要領

1. 評価体制

重点領域研究の中間評価は、研究院審査・評価部会（以下、「部会」という）が評価対象課題の研究分野に応じて設置する分科会にて実施する。ただし、分科会を設置しない場合は、部会がその役割を担う。

(1) 分科会の構成

分科会の構成は、以下の通りとする。

①分科会委員

分科会委員は以下の通りとし、部会へ評価結果を報告後その任を解く。

- (ア) 部会委員のうちから研究院長および部会長が指名する者 若干人
- (イ) 本学の専任教員のうちから研究院長および部会長が指名する者 若干人
- (ウ) 学外の有識者のうちから研究院長および部会長が指名する者 若干人

②アドバイザー

評価対象課題の研究分野に応じて、当該研究分野に精通する学内の有識者に出席を求め、意見を聞くことができる。

③オブザーバー

研究推進を担当する理事、研究推進部長、研究院長、副研究院長、部会長は、必要に応じ分科会に出席し意見を述べるができる。

(2) 座長

分科会に座長1人を置く。

- ①座長は、分科会の業務を統括し、分科会を代表する。
- ②座長は、部会委員の中から研究院長および部会長が指名する。

(3) 運営

分科会は、委員の2分の1以上の出席がなければ開くことができない。

- ①分科会は、座長が招集し、その議事を整理する。
- ②分科会は、委員の過半数によって成立し、出席委員の過半数をもって決議する。

(4) 事務

分科会の事務は、研究院事務局が行う。

2. 中間評価の手順

中間評価の手順は、以下の通りとする。

手 順	実施箇所	内 容
書面確認	分科会	重点領域研究評価指針に基づき、公募申請書、年次計画書、年次報告書の内容を確認する。
ヒアリング評価	分科会	重点領域研究評価指針に基づき、プレゼンテーションおよびヒアリングにより評価する。
評価結果の取りまとめ	部会	ヒアリング評価の結果に基づき、中間評価結果(案)を取りまとめる。

3. 書面確認

(1) 確認手順

書面確認の確認手順は、以下の通りとする。

手 順	実施箇所	内 容
書面確認書類の送付	部会 (研究院事務所)	公募申請書、年次計画書、年次報告書を分科会委員へ送付する。
書面確認	分科会	分科会委員は、重点領域研究評価指針に基づき、公募申請書、年次計画書、年次報告書の内容を確認し、ヒアリング評価の際の留意事項を書面確認シートへ記入する。
書面確認シートの提出	分科会	分科会委員は、ヒアリング評価の際の留意事項を記入した書面確認シートのみを研究院事務所へ提出する。

4. ヒアリング評価

(1) 評価手順

ヒアリング評価の評価手順は、以下の通りとする。

手 順	実施箇所	内 容
留意事項の通知	部会 (研究院事務所)	ヒアリング対象課題の研究代表者へヒアリング評価の際の留意事項を通知する。
プレゼンテーションとヒアリング	分科会	分科会委員は、重点領域研究評価指針に基づき、公募申請書、年次計画書、年次報告書を参考にし、プレゼンテーションおよびヒアリングにより評価し、ヒアリング評価シートに評価結果を記入する。
評価結果の取りまとめ	分科会	ヒアリング評価の結果に基づき、総合討論を行い、中間評価結果を取りまとめ、部会へ提出する。

(2) プレゼンテーション

プレゼンテーションは、原則として以下の通り行う。

○発表者：研究代表者を含め3名以内とする。ただし、諸事情により研究代表者が発表できない場合は研究分担者が発表者になることができる。

○発表形態：口頭によるプレゼンテーション（PC、プロジェクターによる映像併用可）

○使用資料：自由様式資料

○持ち時間：30分（発表15分、質疑15分）

※利害関係者に該当する分科会委員は、当該研究課題の評価には参画できない。

※利害関係者の排除により、分科会の構成が全委員の4分の3（小数点以下切上げ）未満となる研究課題については、部会長が研究院運営委員から委員を委嘱し、4分の3以上の構成で評価する。

(3) 評価事項

①評価は、公募申請書、年次計画書、年次報告書を参考にし、プレゼンテーションに基づき、以下の事項について行う。

○研究成果

○学術的波及効果

○社会的波及効果

○研究体制の自立性

○研究体制の持続性

○人材構成の多様性

○研究目標の総合的達成度

②評価は、以下の4段階で行う。

（4：非常に優れている、3：優れている、2：やや不十分である、1：不十分である）

③総評は、個別評価項目では評価できない、特筆すべき点について記載する。

④評価シートの集計方法は、以下の点数配分で集計を行う。

大項目	国際競争力のある研究の実施			自立的で継続的な研究拠点形成			
中項目	研究成果	波及効果		自立性・持続性			研究目標の総合的達成度
小項目	研究成果	学術的波及効果	社会的波及効果	研究体制の自立性	研究体制の持続性	人材構成の多様性	研究目標の総合的達成度
配点	40	20		20	10		10

以上